



安全ニュース(2026年7月)



(株)スタンダード運輸

(株)東運

ススエ電機(株)

重点実施項目 (国交省告示第1366号)

適切な運行経路と その道路及び交通の状況



"3箇条厳守"

情報を収集して安全性の高い経路を選択しよう

車間距離の確保でエコ&セーフティドライブを!

夏のレジャーシーズンでは、
普段より交通量が増えることが予想されます。
渋滞に巻き込まれてしまうとイライラして、
前車との車間距離を詰めてしまいがちですが、
**「車間距離にゆとりをもって、
加速・減速の少ない運転」**を心がけましょう。



安全運転のポイント



前車との車間距離を確保することで、
無駄な加速・減速を減らし、
交通状況に応じて速度変化の少ない運転
に取り組むことで、燃費の悪化と追突事故を
防いでください。



燃費の向上
環境にやさしい



急な割り込みや前車の急ブレーキなど、
予測できない事態に備え、
常に安全な車間距離を保ちましょう。



追突事故の防止
安全の確保



思いやりとゆとりを持った運転で、快適で安全なドライブを!



暑さへの対応、睡眠不足の解消を!

安全運転は
心と体の健康から!

夏の運転は疲労との戦いです。

いかに運転の過労を防ぎ、快適な条件で運転業務を
続けることができるように自己の健康管理することが
大切になります。



管理者の皆さまへ

朝礼などで運転者に通常より早めの休憩を指示し、
疲れる前に休むことを意識づけください。



また、高温多湿で寝苦しい夜が続くことで睡眠不足に陥っている恐れがあります。
睡りが浅かったり睡眠時間が足りないと、昼間の運転中に**注意力・集中力が落ちてきて、
確認漏れや見落としなどのうっかりミスが増える**ので、睡眠不足の解消を心がけましょう。



睡眠不足を解消するポイント:



室温・湿度を快適に
エアコンや除湿機を活用し、
快適な睡眠環境を整え
ましょう。



規則正しい生活リズム
毎日同じ時間に寝て、
同じ時間に起きる習慣を
つけましょう。



寝る前のスマホ・TVは控える
ブルーライトの刺激を避け、
寝つきを良くしましょう。



水分補給も忘れずに
寝る前や起床後に、
しっかりと水分をとりましょう。



心と体を整え、疲れを残さないことが安全運転の第一歩です!



こんな事故が発生しています 注意!

トラック運送事業の荷降ろしの際に、下のようなフォークリフトの爪による労働災害が発生しています。

● 荷降ろし時に一時降車

フォークリフトの作業者が、4トントラックのバレット荷を取り卸すために
トラックの側方にフォークリフトを止めて、
フォーク(爪)は地上約60cmの高さにしたまま、
またエンジンをかけたままの状態ですぐにブレーキをかけて
フォークリフトから降りて、トラックに接近しようとした。



● 無人のリフトが動き出す

作業者がトラックのドアを降ろそうとしたところ、エンジンがかかった
無人のフォークリフトが動き出し、作業者は爪とトラックボディに
挟まれて負傷しました。



① なお、床面は平坦ではなく、約3度の傾斜があったということです。

事故を防ぐために!



エンジン停止し、
駐車ブレーキを確実に!
荷降ろし時はエンジンを切り、
駐車ブレーキをかけましょう。



フォーク(爪)の高さは
最低に!
作業を始めるときは、フォークを
地上からできるだけ低くしましょう。



フォークリフトから離れるときは
周囲を確認!
人や物の接触を防ぐため、
周囲の安全を確認しましょう。



作業前に
セーフティチェック!
作業計画を立て、
安全ルールを徹底しましょう。



「止める・下げる・確認する」基本動作で、事故を防ぎましょう!



「止める・下げる・確認する」基本動作で、事故を防ぎましょう!

気象情報などを活用し適切な運行指示を!

6月は梅雨に入るだけでなく、7月は
集中豪雨などに見舞われることも少なくありません。
異常気象時は運行が遅れることを覚悟し、
気象情報・道路情報を活用して、
安全で確実な経路の選択をする必要があります。



焦って近道をしようとする知らない脇道に入ったため、
ガード下のアンダーパスで立ち往生などをする危険もあります。



また、堤防道路などは、雨の日はスリップによる転落などの危険が
あるので、交通量が少なくても走行しないようにしましょう。



そのほか、雨天時は勾配の急な峠の道など
アップダウンの多い道路が危険です。



少くく回り道であっても、安全な幹線道路を走行しましょう。



気象情報や道路情報をこまめにチェックし、安全・確実な運行を心がけましょう!

高速道路での事故も増加する



首都高速道路が晴天・雨天別の
1時間当たり交通事故件数を出した統計によると、



晴天時 0.95件/時間



雨天時 3.34件/時間



雨天時は晴天時の約4倍の割合で
交通事故が起こりやすいという
データがあります。



高速道路で最も起こりやすい事故は追突ですが、
雨天時には施設衝突事故
(側壁や中央分離帯などへの衝突)
の割合も増加します。



また、追突事故では道路変更時や合流時などに、
雨滴で安全確認を十分にできないまま操作をしたり、
後続車の速度判断を誤って、追突を誘発してしまう
事例が少なくありません。

晴天・雨天時の1時間あたりの事故件数



雨の日もいつも以上に慎重な運転を心がけ、
安全確認の徹底と早めの判断・操作を行いましょう!

